

<概要版>

まち・ひと・しごと創生

第3次

川崎町総合戦略



2025年3月

福岡県川崎町

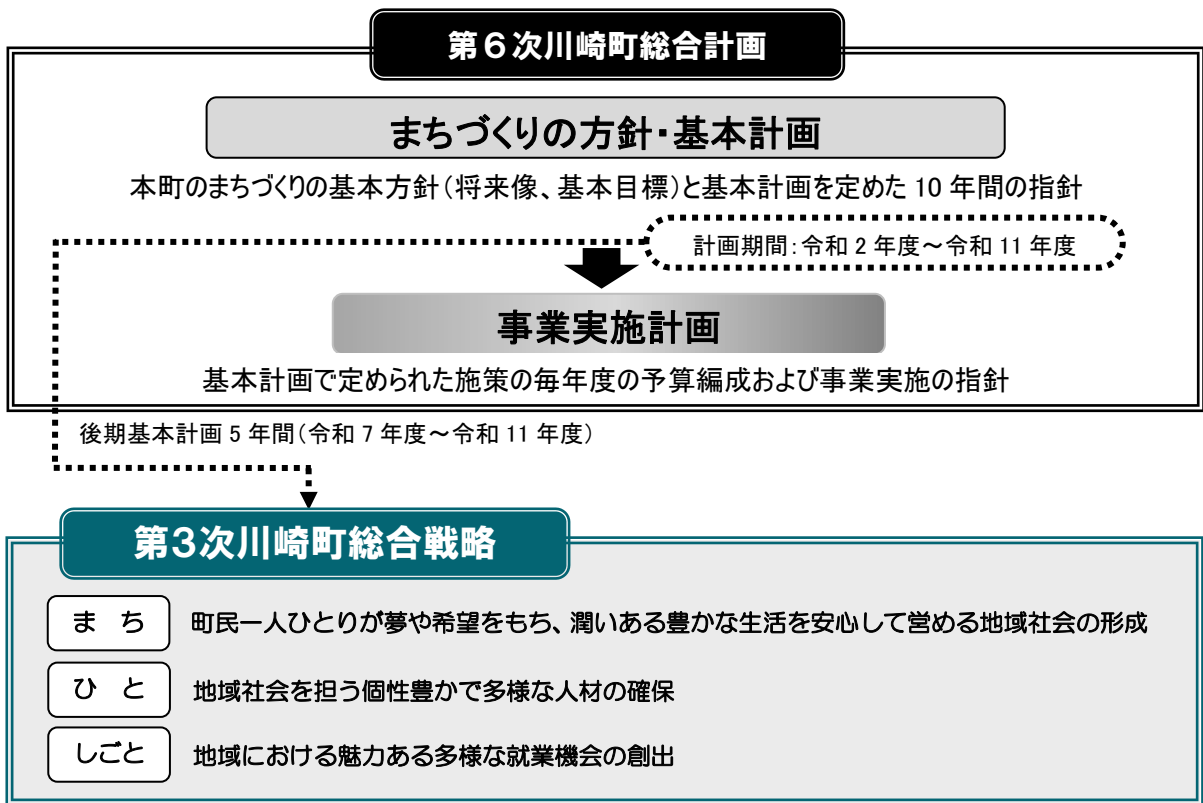
第3次川崎町総合戦略について

1. 計画策定の趣旨

人口減少の歯止めに取り組んできた本町では、国や県の動きとも連動して取組を進めていくために、「第1次川崎町総合戦略」を平成28(2016)年3月に策定しました。さらに、第6次川崎町総合計画と連動する形で見直しを行い、「第2次川崎町総合戦略」を策定し、取組を進め、新規事業進出や交流人口の拡大、学力向上などの成果を得ています。令和6(2024)年度に計画の終了年度を迎えることから、「まち・ひと・しごと創生 第3次川崎町総合戦略」を策定するものです。

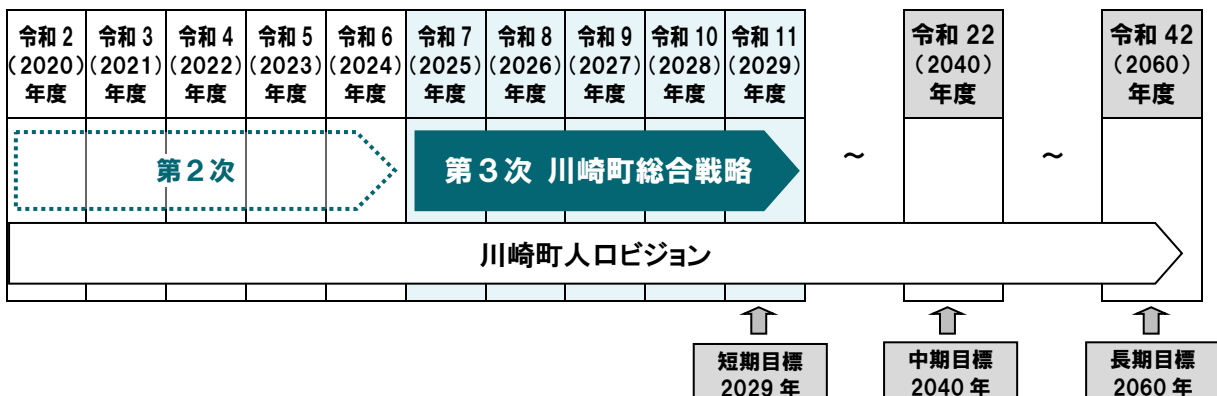
2. 総合戦略と総合計画の関係

■第3次川崎町総合戦略と第6次川崎町総合計画の関係■



3. 計画期間

本計画の計画期間は、令和7(2025)年度~令和11(2029)年度の5年間です。



政策目標と基本戦略

政策目標及び数値目標を以下のように定めます。

政策目標 1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出



数値目標	基準値	目標値
従業者数 (総務省・経済産業省「経済センサス活動調査」)	4,500 人 (R3 (2021) 年)	4,500 人 (R11 (2029) 年)
農業産出額 (農林水産省「市町村別農業産出額(推計)」)	61,000 万円 (R4 (2022) 年)	65,000 万円 (R11 (2029) 年)

(従業者数の目標値は人口減少を踏まえ横ばいに設定。農業産出額は第2次戦略の期間伸び率を用いて設定)

政策目標 2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大



数値目標	基準値	目標値
交流人口(観光入込客数) (福岡県「観光入込客推計調査」)	219 千人 (R5 (2023) 年)	820 千人 (R11 (2029) 年)

(目標値は第2次戦略の期間伸び率を用いて算出し、道の駅の見込額を加算し設定)

政策目標 3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり



数値目標	基準値	目標値
合計特殊出生率 (厚労省「人口動態統計」, 福岡県「福岡県の人口と世帯年報」)	1.64 (R4 (2022) 年)	1.80 (R11 (2029) 年)

(基準値はH30~R4の平均、目標値は人口ビジョンにおける人口推計条件を引用)

政策目標 4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち川崎町の実現



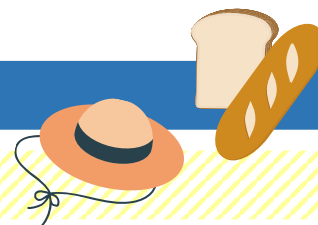
数値目標	基準値	目標値
行政区における自主防災組織率	9.5 % (R5 (2023) 年)	50.0 % (R11 (2029) 年)

政策目標 1 川崎町ならではのしごとと安定した雇用の創出

人口減少による負の連鎖を克服していくためには、若者をはじめとした町民が、働く場を求めて町外に出ざるを得ない状況の転換を図り、地場産業の振興、雇用の創出が重要です。

道の駅等を拠点に町内のあらゆる資源を活用して、「地場産業の活性化」を進めていくとともに、デジタル技術を活用した農業の展開や地域資源を活かした新たな産業の創出等、本町の強みを活かした産業の活性化を進めていきます。

基本戦略 ① 農村型スモールビジネスの拡大



(1) 「稼ぐ」農業プロジェクトの実施

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
新規就農者数	1人 (R5(2023)年度)	5人 (R11(2029)年度)
デジタルツール導入農家の数	0人 (R5(2023)年度)	3人 (R11(2029)年度)

注：基準値はR1からR5までの総数、目標値は計画期間内の総数

(2) 新規事業創出に向けた企業支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
創業支援事業利用件数	4件 (R5(2023)年度)	10件 (R11(2029)年度)

注：基準値はR1からR5までの総数、目標値は計画期間内の総数

基本戦略 ② ハード・ソフト両面による産業基盤の整備



(1) 産業基盤のハード整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
町内主要観光施設消費額	60,600万円 (R5(2023)年度)	113,400万円 (R11(2029)年度)
スマート農機導入農家数	1件 (R5(2023)年度)	3件 (R11(2029)年度)

(2) 起業・経営支援および経営改善のサポートの拡充

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
中小企業人材育成事業活用件数	0件 (R5(2023)年度)	5件 (R11(2029)年度)

注：基準値はR1からR5までの総数、目標値は計画期間内の総数

政策目標 2 川崎町への新しいひとの流れによる定住促進と交流人口の拡大

日本の総人口の減少が見込まれるなか、町外に転出した人口に相当する人を他の地域から取り戻すことは大変な労力を要します。経済活動の一部は人との関係のなかで発生することに着目し、観光等で訪れる交流人口を安定的に確保し、町の経済につなげていきます。

これまでの総合戦略で獲得した新しい人の流れについて、道の駅整備を契機として交流人口の拡大を図りながら、公的支援で立ち上がった産業関連事業は、将来、民間事業として自立するよう取り組みます。

また、訪れた人に本町を移住先として選択してもらえるよう、基礎的な住環境の確保とあわせ、住宅の選択肢や経済的メリットを感じられる仕組みを用意していきます。



基本戦略 ① 川崎町へのひとの流れの強化と戦略化

(1) 交流人口の拡大と戦略化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
観光入込客数	219 千人 (R5 (2023) 年度)	820 千人 (R11 (2029) 年度)

注：政策目標と共有

(2) 「アスリート輩出の地」を活かしたまちづくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
町内体育施設*利用者数	100,497 人 (R5 (2023) 年度)	105,000 人 (R11 (2029) 年度)

*中央体育館、町民会館、B&G、運動公園

基本戦略 ② 定住促進に向けた基盤整備



(1) 交流人口の移住定住環境整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
5 年間*の転出超過数	448 人 (R5 (2023) 年度)	420 人 (R11 (2029) 年度)

*評価年を含む前 5 年間の指す

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
コワーキングスペース利用者数	0 人 (R5 (2023) 年度)	250 人 (R11 (2029) 年度)

*目標値は計画期間内の総数

政策目標 3 川崎町における若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる環境づくり

基礎的な学力を確保していくと同時に、次世代を担う社会の宝である子どもたちが健やかに成長し、人とのかかわりのなかで地域に対する愛着を、学校・家庭・地域の関係者の協力、連携のもとで育ていける本町ならではの子育て支援体制の構築を図ります。

また、子育てをする家庭が仕事との両立を図ることができるよう、子育ての一義的な責任は家庭にあることを基本としながらも、家庭の負担を軽減し、若い世代が出産や子育てに希望をもてる地域の実現をめざします。

基本戦略 ① 魅力ある教育環境の構築



(1) 学力向上プロジェクトの実施

重要業績評価指標 (KPI)		基準値	目標値
全国学力調査の平均正答率「計」(小学校)	国語	川崎町 62.0 % (R6 (2024) 年度)	県平均 (R11 (2029) 年度)
	算数	川崎町 57.0 % (R6 (2024) 年度)	県平均 (R11 (2029) 年度)

(2) 特色ある教育システムへの支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
放課後子ども教室講座数	54 回 (R5 (2023) 年度)	120 回 (R11 (2029) 年度)

基本戦略 ② 若い世代における生活支援の強化



(1) 新婚生活・子育て環境の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
20歳～40歳代の5年間*の転出超過数放	419 人 (R5 (2023) 年度)	370 人 (R11 (2029) 年度)

※評価年を含む前5年間を指す

政策目標 4 安全安心な暮らしを営むずっと住み続けたいまち 川崎町の実現

人口減少が進むなか、限られた財政状況で、公共施設や道路、病院、住宅、公共交通等の社会資本ストックの有効活用を図り、防災や自然環境づくり、町民の生きがいづくりを進め、「住みやすく暮らしやすい」魅力あるまちにしていくことで、町民の満足度を高め、若い世代の地域定着を図ります。



基本戦略 ① 住みやすい地域づくりの推進

(1) 世代間交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
多世代交流イベント※数	8 件 (R5 (2023) 年度)	10 件 (R11 (2029) 年度)
スマホ教室参加者数	0 人 (R5 (2023) 年度)	100 人 (R11 (2029) 年度)

※グラウンドゴルフ大会、町民ハイキング、カローリング大会、駅伝大会、マラソン大会、eスポーツ大会等

※目標値は計画期間内の総数

(2) 歴史と文化によるアイデンティティの再構築

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
盆踊り大会への参加団体数	10 団体 (R5 (2023) 年度)	12 団体 (R11 (2029) 年度)

基本戦略 ② 住みよい社会に向けた基盤整備の充実

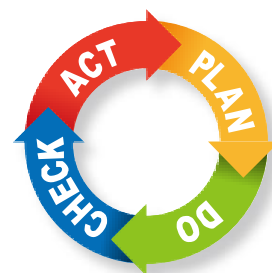


(1) 住みやすい環境の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	目標値
ふれあいバス利用者数	23,389 人 (R5 (2023) 年度)	26,000 人 (R11 (2029) 年度)
オンライン 公共サービスの利用率	0 % (R5 (2023) 年度)	10 % (R11 (2029) 年度)

■ 進行管理

総合戦略に位置づけた施策・事業に対して、確実に実効性が確保できるように、計画策定(Plan)、実施(Do)、点検・評価(Check)、改善(Action)の各過程において、推進体制に基づく進行管理を行います。



■ PDCA サイクルを通じて、「第3次戦略」について、客観的な効果検証を実施します

Plan (計画策定)	数値目標・客観的な指標を設定した効果的な川崎町総合戦略を策定する。
Do (実施)	川崎町総合戦略に基づく施策を実施する。
Check (点検・評価)	数値目標や客観的な指標の達成度を通じて、川崎町総合戦略の成果を客観的に検証する。
Action (改善)	検証結果を踏まえて施策を見直すとともに、必要に応じて、川崎町総合戦略を改訂する。



まち・ひと・しごと創生 第3次川崎町総合戦略 概要版

2025年3月発行

発行：福岡県川崎町

〒827-8501 福岡県田川郡川崎町大字田原 789 番地の 2

Tel.0947-72-3000